



【本号のトピックス】

日本老年歯科医学研究会発足30周年を迎えて・設立当時を振り返って
／厚労省老人保健健康増進等事業に本会の事業が採択される／委員会
だより(研修委員会)／学会だより／支部だより(石川支部共催セミナー・栃木・茨城
支部共催セミナー開催報告)／国際学会のご案内／支部セミナーのご案内

日本老年歯科医学研究会発足 30 周年を迎えて

渡邊 郁馬

日本老年歯科医学会名誉会員

1981 (昭和 56) 年, 日本で最初の老年歯科医学に関する書籍『老年歯科』を編集し発刊したところ, 各地でかなりの反響があったことから老年歯科医学に関する関心が高まり, 各地で研究会やシンポジウムが開催されるようになりました。『老年歯科』の最後のページに, 私がそれまでに集めた文献を分類 (山根 瞳先生) し, すべて掲載しました。これも一つのきっかけになったと思います。

1950 年の後半, 高齢化社会の到来が叫ばれるようになり, 歯科の分野でも高齢者に対する治療が問題となってきました。地域で活躍している歯科の先生方から, 病気の高齢者の治療や在宅の歯科医療についての質問が多く寄せられてきました。

当時の歯科大学には, 高齢者に関する講座あるいは教室はなく, また大学に通院する患者は 60 歳以下の健康な人がほとんどでした。そのため高齢者への対応は難しかったと思います。

ただ一つ, 高齢者を専門に歯科医療を行っていたところは, 私が勤めておりました東京都養育院附属病院 (東京都老人医療センター, 現在は東京都健康長寿医療センター) でした。

開業医からの問題点については, 歯科口腔外科においても検討されており, それまでのデータをもとに私が全国各地で講演をしてきました。しかし, この問題については, 歯科界の各専門分野の先生方といういろいろな点について検討する必要があると思っておりました。

アメリカにおいては, 1960 年代に老年歯科医学会が発足し, 機関誌が発行されていました。こうしたなかで, 1985 年 1 月にコロラド大学歯学部長のメスキン教授から, 老年歯科医学の国際雑誌を作るから, 副編集長を引き受けてほしいとの要請がありました。日本の現状から時期尚早であると思われましたが, 将来を見越して引き受けることにしました。



設立総会における園山教授 (日歯大) による経過報告

1985 年, ラスベガスで IADR の総会が開催されたときに Gerodontology の編集会議が開かれ, 下野正基教授 (当時東京歯科大学助教授) と出席しました。メスキン教授, ペターセン教授 (スウェーデン) やその他の教授と意見交換をしました。Gerodontology の雑誌は, 翌年から年間 6 冊発行されることになりました。

日本に帰国し, 石川達也教授 (東京歯科大学学長) と相談した結果, 日本老年歯科医学研究会設立準備委員会を 1986 年の 6 月に発足することになりました。メンバーは石川達也, 園山 昇, 枝 重夫, 高江洲義矩, 野間弘康, 栗山純雄, 下野正基の先生方と私の計 8 名でした。数回の会合によって設立趣意書, 各分野の世話人の推薦など内容が具体的になり, 1986 年 5 月 25 日の世話人会で私 (東京都老人医療センター歯科口腔外科部長) が代表に推薦されました。

日本老年歯科医学研究会の設立総会は 1986 年 9 月 13 日, 日本大学会館で幕を開けました。世話人代表の挨拶として私が研究会の趣意書を中心に, 老年歯科のこれまでの歩みとこれからの発展の必要性について述べました。



設立総会における榊原教授（愛院大）の議長挨拶

議長には榊原悠紀田郎教授が選ばれ、会則と役員の構成および評議員選出に関する協議が行われました。その結果、本会発足にあたっては各領域から推薦された世話人 71 名が本会の評議員に、また、初代会長には私渡邊郁馬が推薦されました。

研究会は 2 回、3 回と会を重ねるごとに会員数も増加し、第 4 回の時点で 730 名となり参加者も 400 名を超えるようになり、そろそろ研究会を発展的に解消したかどうかとの声が多くなったため、1990 年 9 月の学会より日本老年歯科医学会と改め、理事長には研究会から引き続き私が就任することになりました。

第 1 回日本老年歯科医学会大会長は大阪医科大学の稗田豊治教授が就任し大阪で行われました。会員数は、903 名でした。



シンポジウムにおける座長石川教授（東歯大）と各シンポジスト

さらに、当学会は学際的要素が多く含まれるため他の領域との連携も重要であることから、1991 年に日本老年学会の一分科会として加入を申請したところ承認されました。なお、日本老年学会が国際老年学会に加入していたため、1993 年から国際老年学会に正式に承認されました。1999 年 4 月には日本歯科医学会の専門分科会として加入が認められました。

以上のような経緯でこの学会は先輩たちのボランティア活動によって築き上げられてきて、現在の規模に拡大し各学会からその存在が認識されてきており、過去 30 年日本の高齢者の歯科医療に大いに貢献してきています。今後ますます学会が充実し、日本の歯科医療に貢献することを望んでいます。

設立当時を振り返って

研究会との出会い

山根源之（東京歯科大学名誉教授）

東京歯科大学 4 年生夏の都老人医療センター病理解剖が出会いです。口腔外科入局 2 年目の 1971 年から 25 年間、渡邊先生のもとで非常勤医を勤めました。大学とは違った高齢者の抜歯等の変遷を痛感し、全身状態を考えた老年歯科医学を目指しました。

新しい風

山根 瞳（アポロ歯科衛生士専門学校）

研究会発足当初、郁馬先生をバックアップしたのは 40 歳前後の若い仲間たちでした。あれから 30 年、若い会員の先生方、老年歯科は皆さまの問題です。50 代に若手などと言わせないで、学会に新しい風を送り込んでください。

30 周年の道のりに寄せて

米山武義（米山歯科クリニック）

日本老年歯科医学研究会、発足より 30 周年、おめでとうございます。多くの先生方に支えられながら特別養護老

人ホームでの診療経験をきっかけに、私は老年歯科医学の道に入らせていただきました。これからも開業医の視点を大切にして、学会を盛り立てていきたいと思っています。

気運づくりと学会活動

那須郁夫（日本大学松戸歯学部）

研究会発足の 3 年前から施行されていた老人保健法には、歯科健診の項目が見当たらなかった。そこで厚生省は、渡邊郁馬先生をはじめ、衆智を集めて 8020 を発明した。骨粗鬆症とともに歯周病検診が明記され、現在がある。

32 年前

深山治久（東京医科歯科大学）

32 年前、高齢者の全身麻酔の症例を集めて老年歯科医学会で発表するように命じられました。「高齢？ 老年？」と首を傾げながら準備をして、昭和大学の講堂で発表、続けて論文としました。別刷数を連絡したのは東京都老人医療センター（当時）で、今思うと渡邊郁馬先生が電話に出られたのではないのでしょうか。

平成 28 年度老人保健健康増進等事業 (老人保健事業推進費等補助金)の紹介

渡邊 裕
H28 老健事業特任委員会委員長

本学会から平成28年度老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金)に応募した結果、無事採択されました。そこで2016年7月15日に発足した特任委員会で本事業を実施することになりましたので、その概要をご報告いたします。

事業名

介護保険施設における歯科医師、歯科衛生士の関与による適切な口腔衛生管理体制のあり方に関する調査研究事業

特任委員会構成

櫻井 薫(研究代表者)、渡邊 裕(委員長)、吉田光由(副委員長)、足立 融、石黒幸枝、糸田昌隆、井上 誠、岩佐康行、太田博見、金久弥生、坂本まゆみ、高野直久、高橋賢晃(幹事兼任)、柁安秀樹、恒石美登里、戸原 玄、野原幹司、花形哲夫、平野浩彦、吉川峰加、渡部芳彦

1. 事業の背景

2015年12月現在、口腔衛生管理体制加算を実施している介護保険施設は56%となり、歯科専門職と連携した口腔衛生管理体制は整いつつある。しかしながら、口腔衛生管理加算を算定している施設は7%と限られており、施設入所者の心身および認知機能の低下や口腔内環境の複雑化が進み、より専門的な対応が必要となっている現状にそぐわなくなっている。このため現状に即したより効果的な口腔衛生管理体制のあり方を明らかにして、口腔に関する介護サービスの向上を図る必要がある。

2. 事業目的

- ①協力歯科医療機関が果たすべき役割や関与及び歯科衛生士の効果的な活用方法の実態把握
- ②適切な歯科医師及び歯科衛生士の関与がもたらす要介護高齢者への効果の検証

3. 事業内容

①では全国の日本老年歯科医学会会員の歯科医師、および歯科衛生士が関与している介護保険施設と関与のない介護保険施設のそれぞれの協力歯科医療機関の役割、歯科医師、歯科衛生士の関与状況と、施設入所者の口腔と栄養の実態調査(調査員調査)を行い、それらの関連を分析する。これにより最も適切で効果的な口腔衛生管理体制のあり方を検討する。

②では①で調査した介護保険施設の過去1年間の退所



2016年8月8日に行われた委員会の様子

者数、退所理由、看取り者数、栄養摂取の状況、肺炎発症者数、入院者数(入院理由)などを調査するとともに、調査員調査を受けた入所者を追跡し、その間の肺炎、発熱、入院、退所、栄養状態および栄養摂取状況の変化について検討し、歯科医師および歯科衛生士の関与がもたらす要介護高齢者への効果を検証する。

以上2つの結果から、介護保険サービスにおける適切な口腔衛生管理体制を明らかにする。

本事業の事業金額は1,500万円である。

4. 会員の皆様へのご協力のお願い

本事業では、会員の皆様にご協力をいただきたいと思います。ご協力の内容は、会員の皆様が関与されている介護保険施設に対する以下の3つの調査データの提供です。データの提供は匿名化した状態で行います。

- ①施設の入所者(本事業への協力に同意された方のみ)の歯科口腔健診結果のご提供(健診結果については、本年度すでに実施されたもの、これから実施予定のものどちらでも構いません)
- ②施設の介護、看護職員を対象とした口腔ケアに関するアンケート調査
- ③施設の状況調査(施設概要、歯科の関与状況、口腔関連サービスの状況など)

詳細につきましては、お手数ですが学会事務局までお問い合わせください。

支 部 だ よ り

石川支部共催セミナー
「金沢市歯科医師会 学術講演会」
開催報告

石川支部 高木治仁

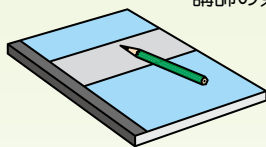
2016年7月24日(日)に、新しくなった石川県歯科医師会館にて金沢市歯科医師会主催でセミナーを開催しました。

講師として日本歯科大学教授・口腔リハビリテーション多摩クリニック院長の菊谷 武先生に「食べる事に問題のある患者に歯科は何ができるのか?」と題してご講演いただきました。

対象は会員の歯科医師のみということで、参加者40名で中身の濃い講演となり、超高齢社会における認知症高齢者の歯科医療の向上のために有意義な講演会となりました。



講師の菊谷 武先生

栃木・茨城支部共催セミナー
「第5回北関東摂食嚥下リハビリテーション研究会」開催報告

栃木支部 尾崎研一郎

栃木・茨城支部の共催セミナーとして、2016年8月28日(日)、茨城県立医療大学にて「第5回 北関東摂食嚥下リハビリテーション研究会」が開催されました(参加者220名)。特別講演では「小児の摂食嚥下機能を育てる」と題し、弘中祥司先生(昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座 口腔衛生学部門 教授)にお話をいただきました。シンポジウムは「食べる機能に障害のあるこどもへの摂食支援への取り組み」として5演題あり、演者として茨城県教育庁職員、茨城県の学校教諭、特別支援学校の栄養教諭、茨城県立医療大学の作業療法士、茨城県歯科医師会の歯科衛生士が登壇されました。医療の枠を越えた多職種連携の重要性が再確認できた研究会でした。



シンポジウムの様子

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● 国 際 学 会 の ご 案 内 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

【2017 Annual Congress of the European
College of Gerodontology (E.C.G.)】

日 時:2017年4月26日～28日

(29日はソーシャルプログラムを予定しています)

テーマ:Overcoming Barriers in Oral Health in Later Life

開催地:University of Malta Valletta Campus
(マルタ共和国)

抄録締切り:2017年1月6日(ポスター)

2017年1月27日(ECG Award(オーラル))

参加登録:2017年1月2日(事前参加登録締切日)

2017年4月15日(最終参加登録締切日)

ウェブサイト:

<http://www.gerodontology.eu/next-meeting.php>

地中海の中央部に位置する小さな島国、世界文化遺産の街バレッタで、老年歯科医療の未来についてともに語り合ってくださいことで、楽しく有意義な時間になることと思います。



支部セミナーのご案内

※詳細は学会ホームページをご覧ください

愛媛支部共催セミナー

「第20回『口から食べたい』セミナー」

会 期:2016年10月16日(日)9:30~16:00

会 場:松前総合文化センター(愛媛)

主 催:伊予歯科医師会・松前町

テーマ:「口から食べたい」の原点に帰る

内容・講師:

演題1「口腔機能を引き出す食事の形態とスプーンテクニック」

田中靖代(ナースিংホーム「気の里」施設長)

演題2「高齢社会を乗り越えるために 日本版OAG(口腔アセスメントガイド)を使って連携しよう」

村松真澄(札幌市立大学看護学部)

演題3「健康寿命延伸の為に歯科医療～オーラルフレイルと介護予防～」

加藤武彦(横浜市開業 歯科医師)

ディスカッション

福岡支部共催セミナー

「第12回福岡摂食嚥下サポート研究会」

会 期:2016年11月13日(日)10:00~16:30

会 場:パピヨン24 ガスホール(福岡)

主 催:福岡摂食嚥下サポート研究会

テーマ:災害時における摂食嚥下サポート

内容・講師:

特別講演「摂食嚥下アプローチ in 地域リハ ー東日本大震災を経験してー」

高橋博達(浜松市リハビリテーション病院
リハビリテーション科)

パネルディスカッション「災害時の摂食嚥下サポート」

- ①医師 宮崎 卓(ヨコクラ病院外科医長)
- ②歯科医師 太田宜彦(おおた歯科クリニック院長)
- ③管理栄養士 野波丈倫(正信会水戸病院栄養課)
- ④歯科衛生士 楠田美香(熊本県)

その他 一般演題

山梨・静岡支部共催セミナー

「『認知症と食』を考える 合同研修会」

会 期:2016年12月4日(日)14:00~17:55

会 場:「かいてらす」山梨県地場産業センター3F(山梨)

共同開催:日本老年歯科医学会山梨支部・静岡支部

認知症の人の食支援研究会

摂食嚥下サポートやまなし

内容・講師:

特別講演「疾患別対応 認知症高齢者の食支援」

野原幹司(大阪大学歯学部准教授)

シンポジウム「認知症への包括的関わり～新オレンジプランを見据えて～」(座長:平野浩彦)

基調講演 山田律子(北海道医療大学看護福祉学部教授)
シンポジスト

- ①花形哲夫(日本老年歯科医学会山梨県支部長)
- ②永松正明(認知症サポート医 甲府市医師会認知症対策委員長)
- ③平野浩彦(東京都健康長寿医療センター社会科学系専門副部長)
- ④小林由紀子(長寿健康推進課 認知症・地域支援担当主査)
(指定発言 米山武義)

佐賀・長崎支部共催セミナー

「第9回九州・山口口腔ケアシンポジウム in 佐賀」

会 期:2016年12月18日(日)10:00~17:00

会 場:メートプラザ佐賀(佐賀勤労者総合福祉センター)

主 催:NPO法人「オムスン」口腔管理支援ネット

テーマ:超高齢社会に向けての着実な口腔ケアをめざして
～多職種連携から学ぶ口腔ケア～

内容・講師:

基調講演「超高齢社会における医療・介護への多職種連携と歯科の役割」

廣瀬知二(伊東歯科口腔病院訪問診療部部長)

特別講演「周術期口腔管理など、医科歯科連携の推進について」

上村俊介(総合病院山口赤十字病院歯科口腔外科部長)

依頼講演「歯科医療に役立つC型肝炎ウイルスの豆知識」

長尾由実子(佐賀大学医学部臓器情報講座教授)

シンポジウム「多職種から学ぶ口腔ケア」

多職種10名からの発表

愛知支部共催セミナー

「東海オーラルマネジメント研究会」

会 期:2017年1月22日(日)

午前:10:00~12:15 午後:13:30~15:45

(午前・午後は同じ講演内容です)

会 場:ウインクあいち 小ホール(愛知)

主 催:東海オーラルマネジメント研究会

テーマ:地域包括ケアにおける摂食嚥下リハビリテーションの和

内容・講師:

- 1.「地域包括ケアと摂食嚥下リハビリテーション」
加賀谷 斉(藤田保健衛生大学リハビリテーション医学Ⅰ講座教授)
- 2.「今、開業歯科医に寄せられる食支援の期待」～ライフステージに即した歯科医療のあり方とは?～
寺本浩平(寺本内科歯科クリニック院長)

委員会だより

研修委員会

委員長 片倉 朗

研修委員会は今年度から新たに設置された委員会で、私を含め 5 名の委員でスタートしました。これからの歯科医療において「高齢者の口腔機能の維持と管理を通じての健康長寿」は最も大きな課題であり、それを牽引する本学会の責務は重要であることはいうまでもありません。本学会では 2015 年 7 月に「老年歯科医学教育基準」を策定しました。歯科医師国家試験の出題基準にも「高齢者歯科」の分野が明確に提示され、来年度に改訂される歯科医学教育のコア・カリキュラムにもその範囲が拡大される見込みです。「老年歯科医学」は基礎系・臨床系・社会系をはじめとした多くの分野の見地が必要な学際的領域であり、実際の臨床ではこれまでの卒前・卒後教育では行われてこなかった知識や技能も必要となります。歯科医師が「国民に良質で安全な老年歯科医療」を広く提供し普及させるためには、すでに本学会で活動される先生方はもとより、現場で診療を行っている先生方にも基本的な内容から社会のニーズと保険政策に呼応して、日々進化する内容を知っていただき共有していく必要があります。す

でに各支部組織では、その地域のニーズに合ったテーマで研修会が行われています。本委員会ではそれらに加えて、大局的テーマを主体にした学会全体での研修会を企画する予定です。学術委員会・認定制度委員会・支部組織・地域保健医療福祉検討委員会などの関連する委員会とも連携をとりながら企画を進めております。学会全体で共通の認識が必要とされる内容をテーマとして、幅広い先生方にご参加いただける企画で今年度は下記の開催を予定しております。

※平成 28 年度 学会主催研修会

開催日：平成 29 年 3 月 5 日（日） 3 時間程度

会 場：東京歯科大学血脳ホール

テーマ：

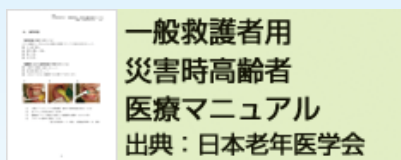
「高齢者の服用薬からわかること、モニタリングからわかること」（仮題）

どなたでも参加できますが、歯科医師および歯学部学生向けの内容となっております。詳細は今後、学会ホームページおよび学会誌会告でご案内いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

学 会 だ よ り

○災害時高齢者歯科医療の情報を学会ホームページに掲載しております。どうぞご活用ください。



○ホームページ English サイトがリニューアルされました（右図参照）。今後もコンテンツを増やしてまいりますので、ご活用ください。

○今年度の表彰者の紹介を「老年歯科医学」第 31 巻 2 号に掲載しております。



編集後記

新たな委員会になってから最初のニュースレターをお届けいたします。今号は、本学会の前身となる「日本老年歯科医学研究会」が発足して30周年を迎えたことから、いつもよりページを増やしてお送りいたします。たとえるならば、研究会の発足は、その後「学会」に移行する前の産声でした。温故知新、発足時より先見の明を有し関わられた6名の先生より寄稿をいただきました。ぜひお目通しいただき、今後の学会のあり方の一考としていただければ幸いです。

（河相安彦）



発行人 櫻井 薫

編 集 （一社）日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル （一財）口腔保健協会内

電 話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341